

平成24年度第1回かごしま市すこやか子ども元気プラン地域協議会

【開催日時】

平成24年8月16日（木） 14:00～15:50

【開催場所】

鹿児島市役所東別館1101会議室

【出席者】

○委員 20名

西委員、吉元委員、尾ノ上委員、久留委員、福重委員、富永委員、山口委員、大迫委員
河野委員、下田平委員、谷口委員、上野委員、慶田委員、森田委員、北方委員、黒江委員
尾前委員、鉾之原委員、小菌委員、寺原委員

○鹿児島市

穂園子育て支援部長、徳留保健所長、日高こども福祉課長、松枝障害福祉課長、
西村谷山福祉部福祉課長、垂野保健予防課長、向井保健体育課長、平青少年課長、
廣司生涯学習課主幹、吉田子育て支援推進課長、ほか事務局職員

【会次第】

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. 会長あいさつ
4. 議事
 - (1) 第二期かごしま市すこやか子ども元気プラン平成23年度実施状況及び平成24年度実施計画について
 - (2) 数値目標について
 - (3) その他
5. 閉会

【会議の内容】

2. 委嘱状の交付
委嘱状の交付（子育て支援部長から新委員2名へ委嘱状交付）
子育て支援部長のあいさつ
3. 会長あいさつ
4. 議事
 - (1) 第二期かごしま市すこやか子ども元気プラン平成23年度実施状況及び平成24年度実施計画について

(事務局)

[資料説明] (資料 1、資料 2)

(委員)

病児・病後児保育事業における 24 年度の 1 か所新設はどの地域か。

(事務局)

東谷山地区である。

(委員)

乳幼児医療費助成事業で小学校 6 年生まで拡充するのはいつからか。

(事務局)

今年度は拡充に向けたシステム改修を行い、現時点では 25 年度中の実施としか申し上げられないが、25 年度当初からの実施は難しいと思う。

(委員)

新生児・妊産婦訪問指導事業の中で、妊婦の訪問指導は何%くらいあるのか。また、マタニティマークの普及啓発があり、母子健康手帳の交付の時に配布などしているが、今後、マタニティマークを利用して効果を感じたお母さんの割合がどの程度あるのかということ調査することはできないか。それから、妊娠期間中からの育児不安等を抱えた家庭の把握と支援の中で、妊産婦健康相談、電話相談等で個別相談を行ったとあるが、どの程度の件数でどのような方法で行ったのか。

(事務局)

まず、妊産婦訪問指導のうち、妊婦だけについては数字が手元にないので、後ほど報告する。マタニティマークについては、お配りするだけで終わっている部分もあるので、今後、1 歳半健診にくるお母さん方にご意見を聞くような機会ができないか検討してみる。次に、相談等についてだが、母子手帳をもらいにくる方の中には、喜んで来る方も迷いを多少持っている人もるので、そういう方や、前回の出産時に苦労した人、悩みのあった方については、地区担当保健師が定期的に電話をしたり、訪問しているが、数字については、持ち合わせていないので、後ほど説明したい。

(委員)

私どもが委託を受けて妊産婦の訪問をしているが、妊婦の訪問は保健所の職員が訪問し、産婦や新生児は私どもが訪問している。しかし、産後訪問する助産師は、妊娠中から関わり、新生児、産婦と引き続かないとやりにくかったり、人間関係の構築に問題があったりする。そういう意味で妊婦の訪問についても委託の形をはっきりと示していただければ妊娠中の肝心な時期のケアができる。元気プランでも妊娠中の取組みが軽いと

思っているのでよろしくお願ひしたい。

(事務局)

保健所としても妊娠中は体の妊娠経過には注目しているが、心の不安ということは人でないと支えることができないので、取り組んではいるが、数字は後ほど示したい。

(委員)

私は発達支援事業における早期発見、早期療育についてお伺いする。まず、乳幼児健康診査事業では、障害の早期発見ということでは1歳半健診が重要だということは周知のとおりである。今やっている発達支援事業は、実態調査をしているのか。またはその予定があるのか。それから、子どもすこやか安心ねっと事業についてだが、この取り組みは素晴らしいと思うが、成果と課題ということで、相談に来た親あるいは子どもの追跡調査はどうなっているのか。また、保育園の問題も深刻である。障害を持った子どもが早期療育を受けて力をつけてようやく幼稚園、保育園に入れるようになってきている。そのこのところも含めて障害児対策は進めていっていただきたいと思う。

(事務局)

1歳半の乳幼児健診で発達上気になる方は、スクリーニングのいろいろな手法を実施しており、年間7、8百人の子どもを事後フォローにまわしている。また、3歳児健診でスクリーニングをすると1歳半で気にならなかった子どもがあがってきたりする。こういった形でフォローしていくかということであるが、すこやか安心ねっとに健診からつないでいくということもしている。どこまでフォローできるかということについては、こちらで経過をみれる子どもと親の判断でいかれる方もいるので、健診の時の気になる方を確実にできているかということは申し上げられないが、平成22年度から1歳半、3歳健診の問診の充実を図っており、その経過についてフォローという形では充実ができていると考えている。すこやか安心ねっとについては、今年度からお母さん達によるるんクラブも始めており、システムとしては充実できてきているが、課題としては、その中に入っていない家庭への働きかけ、つながりを十分とっていくということが考えられる。

(事務局)

保育園での障害児の受入れに要する保育士の加配について補助をしているが、補助金の23年度、24年度を比べても予算額を増やしており、私どもとしては、受入れについては、今後も体制を整えていきたいと思っている。

(委員)

療育に通っている子どもの下に赤ちゃんが生まれたりして、現場はその対応に四苦八苦している。就労に関係なく保育園が使える自治体もある。そういう取り組みも期待したい。

(委員)

ポリオが経口から注射に代わり、ポリオを1回やった家庭、やっていない家庭など複雑になるが、その辺の教育をしているか。

(事務局)

9月1日から変わるのでどういう形でお知らせするか検討をしている。該当する方々には、個別に予診表をお配りして案内するが、今後は個別対応になる。他の予防接種との兼ね合いは主治医の先生との相談になるので、医師会にもお願いをしている。

(委員)

ロトワクチンが2か月からになったが、妊婦に対する啓発をやって欲しい。

(事務局)

母子手帳の中に予防接種に好ましい期間や詳細な表などが載っており説明はしているが、妊婦に母子手帳を渡す時に気をつけたいと思う。

(委員)

水痘やおたふくかぜについても予防接種が遅れているので対策は検討していないか。

(事務局)

国の方もいろいろ制度が変わっているので、どうやって市民に正確な情報を提供するかということもある。情報収集をして該当者にきちっと情報が行く方法を考えたいと思う。

(委員)

虐待に関するシンポジウムは24年度の計画があるか。

(事務局)

23年度に初めてシンポジウムをしたが、これは1、2年おきにと考えているので、今年度の開催は考えていない。

(委員)

虐待予防については、妊娠した時から考えないとならないと思う。望まない妊娠など妊娠した時からいろいろ問題がある。その次は生まれた時点で未熟児や障害を持って生まれたなどある。そうすると虐待の危険性が大きくなる。妊婦の時代にそういう環境がないかチェックしていただき、健診では産婦人科に行くので、そういうネットワークを作り、フォローを助産婦や保健師にさせていただくシステムを作って欲しい。

(委員)

ふれあい子育てサロンについてだが、これは社会福祉協議会が提案し、地域の課題解

決、福祉の課題解決ということで、それぞれの校区社協で実施している。現在、51 校区社協が 49 会場で毎月実施している。昨年の全国社会福祉協議会大会で認められて表彰を受けた。72 校区社協のうち 51 でやっており、啓発に取り組んでいるので協力をお願いしたい。

(委員)

郷中教育推進事業の内容を教えてください。

(事務局)

この事業は、新郷中教育であり、鹿児島に伝わる郷中教育を推進しているものではない。放課後子ども教室で小学校 4 年生から 6 年生を対象に、家に帰っても保護者がいない子ども達、または少年団の後などに、地域に伝わる伝統行事や遊び、宿題をやるなどの活動を通して集団の中で指導員と一緒に活動するという内容である。これは児童クラブとは異なり、空き教室がある学校において推進している。

(委員)

大阪で大会があった際に、高校に郷中教育の冊子などがあった。荒田出身の方が学校を建て、郷中教育を中心にした教育をしていた。追手門高校だったが、その後も交流がある。非常にいい教育であるので、もっと広げて行って欲しい。それから、幼保一元化についてだが、鹿児島市には 64 の私立幼稚園があり、そのうち 10 幼稚園が保育所を抱えている。今後の方向性を教えて欲しい。

(事務局)

子ども子育て 3 法については、国会で成立し、国としては 27 年度を目標に本格施行と考えている。市町村においては、保育等のニーズというものを調査してから、計画を立てることとされているので、これからの検討課題だと考えている。今後、関係の皆様方にはご意見を聞かせていただくことになると思う。

(委員)

乳幼児医療費助成についてだが、申請の煩雑さがある。書類を毎回提出する形があるが、手続きの簡素化も考えて欲しい。それから、予防接種の件だが、お母さんたちがあまり知らない。今は、2 か月過ぎに保健所から無料券などが送られてくる。2 か月からロタなどができることを知らないお母さんも多い。もう少し早く送り、その中でヒブや肺炎球菌の説明などを入れて欲しい。それから、23 年度決算に比べ 24 年度予算が減っているがその理由は何か。

(事務局)

乳幼児医療の手続きについては、当初は償還方式で毎回書類を提出していただいていたが、19 年度から自動償還方式になり、受給者証を提出すれば医療機関からデータが送られてくるので、受診された方が市役所に書類を提出する必要はない。負担金について

は、3歳未満は無料、3歳以上の課税世帯は、2,000円を控除した分が後から返ってくる。

(事務局)

予算額については、子どもの数と過去3年間の受診した数などから出している。24年度はポリオが9月1日から不活化に代わるので、この予算額から大きく変わると思う。

(2) 数値目標について

(事務局)

[資料説明] (資料3)

(委員)

障害児保育については、目標103か所に対して57か所となっているが、この推進はどのように考えているのか。

(事務局)

103か所は全保育園の数であり、57か所は障害児を受入れ、保育士を加配して補助金の対象になっている保育園の数である。障害児を受入れているが加配していない保育園は入っていない。

(委員)

発達障害の子どもは幼稚園、保育園にたくさんいる。学校に行ってからとか、いろいろな問題を起こしてからわかるケースが多い。就学前のところで、いかに早期発見、早期療育を始めるかである。保育園を支援していくことが必要であり、研修の中身なども綿密に検討していく必要がある。現場からどういうことが要求されているかなどを把握して実施していただきたい。

(委員)

児童虐待に関する関係機関への研修とはどのような内容か。

(事務局)

これは22年度から始めたもので、22年度は市立保育園の職員を対象に虐待の現状、子どもの状況の把握と通報などを研修した。23年度は私立保育園、幼稚園に案内したところたくさんの希望があり回数が増えた。当初の目標は年間10回くらいと考えていた。今後は月1回程度になるのではないかと思う。

(3) その他

(事務局)

[子育て支援ネットワーク構築事業について説明]

(委員)

調査の対象には、障害を持った子ども達も入っているのか。

(事務局)

調査は、無作為抽出をする。内容は子育て支援の現状やニーズの把握などを考えている。無作為抽出なので入ってくる。

(委員)

障害児保育については、平成 23 年度実績で 130 人いる。57 か所がやっているということであると偏在化していることになる。是非、103 か所すべての保育所で障害児保育ができるような施策をお願いしたい。もっと実態を把握しながら具体的な内容を深めていただきたい。

5. 閉会